

常設展示をよりわかりやすく模様替え

市博物館では、常設展示の一部模様替えを行いました。本市の歴史・文化に関する資料とその解説パネルを増やし、展示内容を縄文・弥生時代から昭和時代まで時系列で配置し直し、よりわかりやすく紹介しています。また、市の歴史民俗を語る上で欠かせない史料である市内各地の神社・仏像の写真パネルや、漆器産業、山仕事など、昔の手仕事や職人が使用していた道具などをより見やすく展示。資料に直接触れることのできるコーナーもあります。

●縄文・弥生時代に関する展示について

市内で出土した貴重な土器や土偶などの展示を通じて、本地方の縄文・弥生時代の暮らしぶりを解説しています。

昨年7月に開催した「なりきり学芸員」講座で、キッズ学芸員が展示した土器を、受講



縄文土器
キッズ学芸員が展示した

した感想と合わせて紹介しています。

●幕末に関する展示について

江戸時代から明治時代にかけて、本地方ではどのような出来事や変化が起きていたのかを解説しています。



戊辰戦争時、内戦のひとつである秋田戦争で実際に使用された甲冑

●昔の漆器産業について

本地方の漆器産業について、明治時代に作られたとされる加飾の施された菓子器

南部藩の保護を受け栄えた江戸時代から明治時代の衰退期、加飾という技術革新などの変遷を辿り、安比塗として現代に復活するまでの流れを紹介しています。



明治時代に作られたとされる加飾の施された菓子器

読書通じて見える世界を広げよう

図書館ボランティア募集中

市立図書館では、図書館の活動を支援するボランティアを募集しています。主な活動は次のとおりです。詳しくは、当館までお問い合わせください。

- ▶本棚整理＝毎週水曜日、午後1時から3時まで
- ▶本の修理＝毎月第3木曜日、午前10時から午後3時まで
- ▶読み聞かせボランティア＝毎月第2・4土曜日、午後2時半から3時まで

◆おすすめ絵本の紹介

『むかし日本狼がいた』文・絵：菊池日出夫

日本各地に生息していたものの、百年ほど前に絶滅したと言われるニホンオオカミ。害獣よけに山の神として祭られる存在でもありました。オオカミの生態や人間との係わりを描いた絵本です。



4月23日から「こどもの読書週間」



「小さな本の大きなせかい」を標語に掲げ、4月23日(日)から5月12日(金)まで『こどもの読書週間』が実施されます【主催：(公社)読書推進運動協議会】。

大型連休であるゴールデンウィークも利用して、親子で読書に親しみましょう。



また期間中、市立図書館では関連イベントとして「子ども図書館まつり」を開催します。楽しいお話会や本の交換会を行いますので、ぜひ図書館に遊びに来てください。

■日時 5月7日(日) 午後1時半から3時半まで

◆おすすめ絵本の冊子を作りました

「新刊子供の本を読む会」では、28年度の活動を通じて、おすすめの絵本を紹介する小冊子を作成しました。冊子は館内で配布しています。